

<関係法令等>
 ・日本国憲法
 ・教育基本法
 ・学習指導要領等

各教科の指導の重点
 各教科において、以下の力を育てる。
 (国語) 自分の考えや思いを言葉や文章で豊かに表現する力
 (社会) 社会的な事象の意味を考え表現する力
 (算数) 見通しをもち、筋道を立てて考え表現する力
 (理科) 自然の事象に対して進んで働きかけ、自ら問題を見つけ、解決していく力
 (生活) 対象と自分とのかかわりに関心をもつ力
 進んで活動する力
 (音楽) 学習したことを生かして、音楽を楽しみながら工夫する力
 (図画工作) いろいろなものや事象の特性を感じ取り、自分のふさわしい造形表現をしようとする力
 (家庭) 家庭生活に主体的にかかわり生活をよりよくしようとする力
 (体育) 進んで仲間とかかわりながら、課題をもって楽しく運動する力

外国語活動の指導の重点
 ・外国の言語や文化への興味関心を高め、それらを尊重する国際感覚を養うこと。
 ・様々な人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと。
 ・音声や基本的な表現に慣れ親しませること。

総合的な学習の時間の指導の重点
 ～かかわり こだわり がんばり～
 ・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
 ・学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。
 ・各教科で身に付けた知識や技能を相互に関連付け、それらを学習や生活に生かし、総合的に働くことができるようにすること。

<学校教育目標>
 児童、学校及び地域社会の実態の上に立って、人権尊重の精神を培い、健全な社会人として、よりよい自分や社会をつくらうとする自己形成力をもち、生涯を通じて学び続けることのできる心豊かでたくましい児童を育てるため、次の目標を設定する。
 ○実行する子供
 ○思いやりのある子供
 ○健康な子供

学校経営方針（学力に関して）

「確かな学力の定着、豊かな心の育成と
 言語に関する能力の育成を図る」

(学習指導の目標)
 習得した知識・技能を活用し、主体的に問題解決に取り組む子供を育てる。

(学習指導の指針)
 学習過程を工夫するとともに、学習過程の各段階ごとに適切な手立てを設定し実践することによって、各教科各領域における子供の学力を育成する。

<願い>
 ・児童の実態や願い
 ・保護者の願い
 ・地域社会の願い
 ・PTA 運営委員会、学校評議委員会からの意見等

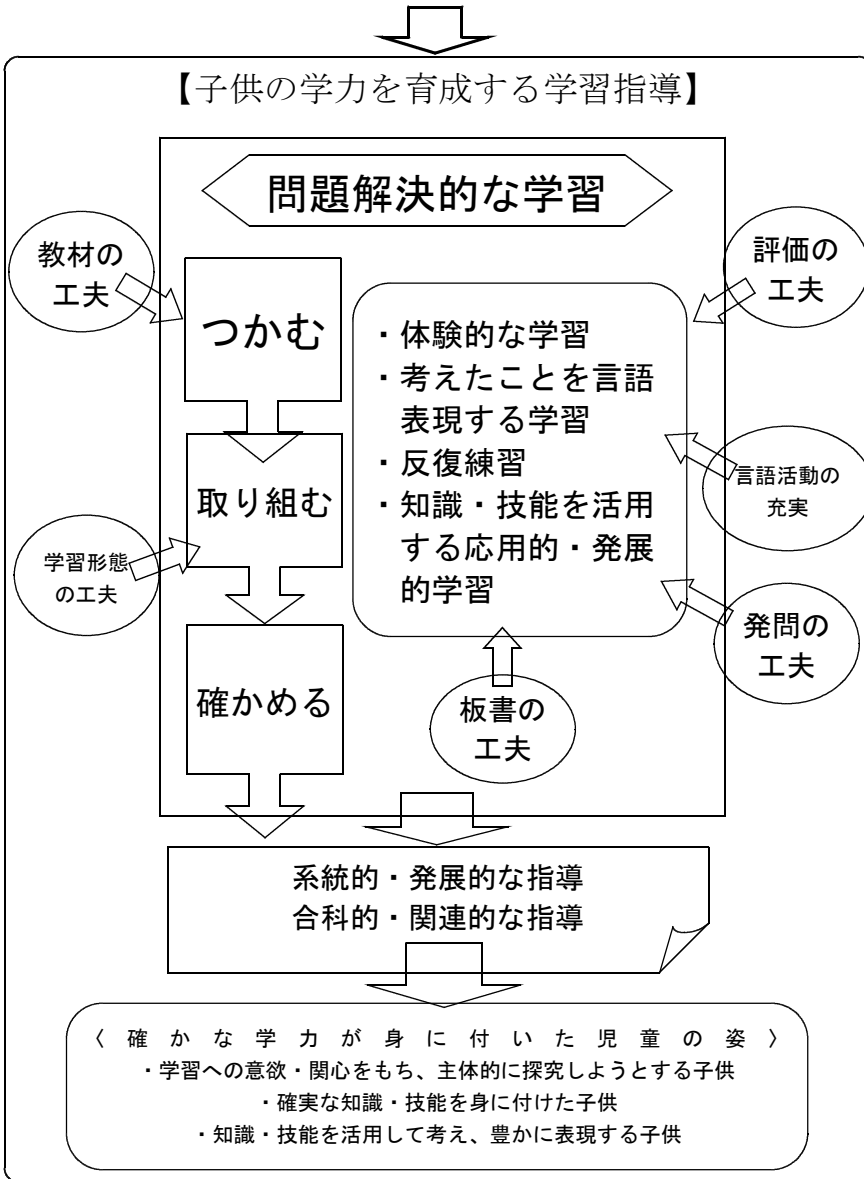
<児童の実態>
 都学力・意識調査を受けて(現5年・6年)
 ・平均を下回る状況にある。
 ・基礎 基本の定着が不十分である児童が散見される。
 ・筋道を立てて考えることや、考えたことを文章表現することに課題が見られる。

道徳教育の指導の重点
 ○「自分の思いを豊かに伝え、認め合う子供の育成」の実現を目指し、授業改善を図る。
 ○全教育活動を通して、互いに人格・人権を尊重し合い、思いやりの気持ちをもって道徳的な実践ができるよう、道徳性の育成を図る。
 ○道徳実践の場としては、特別活動の充実に努め、児童の道徳性を内面から高めるような指導と評価を適切に行う。

特別活動の指導の重点
 集団の一員としての役割を自覚させ、自己を伸ばす実践的な活動を進め、責任感や思いやりなどの社会性を育てる。

生活指導の指導の重点
 一人一人の子供に所属感、存在感、充実感をもたせ、主体的で安全で快適な生活づくりをしようとする子供を育てる。
 ・組織的対応
 特別支援部
 生活指導職員会議
 ・生活指導事項における教職員間の共通理解
 生活指導職員会議
 生活指導職員朝会

進路指導の指導の重点
 ・児童一人一人の能力や適正を正しく把握し、自己の将来に希望や生きがいがあるよう指導援助する。
 ・学校生活の中で、自己のよさや役割について意識化させる生き方指導に努める。
 校区別研究協議会や小中連絡会、体験入学等を通して中学校との連携を図り、勤労観や職業観をもてるようにする。



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫・教育環境の整備	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 言語に関する能力を育成する中核的な国語科を中心とした言語活動の充実 評価を生かした指導の工夫 算数科における少人数指導の工夫（習熟度別指導） 発展的な学習・補充的な学習の開発 体験的・問題解決的な学習の重視 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決的な学習を主体とした学習過程の充実 区立図書館による学校支援モデル授業を活用した学校図書館の充実と、小竹図書館と連携した読書活動 問題解決的な学習を充実させるためのコンピュータ、電子黒板、ICT機器、学校図書館等の活用 週3回の「ぐんぐんタイム」の実施（東京ベーシックドリルの活用） 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究では、8回(全学年)の授業研究を実施するとともに、事前授業、事後検証を通して全教員が授業公開し、授業力を高める。 小中一貫研究グループ校として、他小中学校と連携して児童の言語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人のよさを見取ることができるように工夫する。 自己点検シートや授業観察シートを用いて、授業の改善を図る。 評価計画の作成、改善をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開、道徳授業地区公開講座の推進 開進第三中学校・開進第二小学校と連携した指導体制の確立 保護者の教育活動への参加 地域の人材確保と活用 教育内容に合った地域施設の活用と連携体制の確立 学校公開の保護者・外部評価等を授業改善に活用